

きもちのしるし

海外救援金にご支援いただいた皆さまへ



2020-2021

海外救援活動報告書

©Ibrahim Möllik IFRC

日本赤十字社は 皆さまからいただいた「きもち」を 人道危機の中、厳しい状況に 生きる人々に 確実に届けます。

日本赤十字社は、皆さまからお寄せいただいた救援金をもとに、
紛争や自然災害に見舞われた世界中の人々のいのちと健康、
尊厳のある生活を守るため、救援活動を行っています。
この冊子では、主に2020年から2021年にわたり
取り組んだ活動について報告いたします。

皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

2020-2021
海外救援金の主な支援先



ハイチ



アフガニスタン



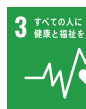
中東(イエメン・イラク・シリア・パレスチナ・レバノン)



バングラデシュ

この海外救援金事業は、SDGsの達成 に貢献します

SDGs
(持続可能な開発目標)



SDGsとは
「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。



HAITI

社会的・経済的に不安定な ハイチを襲った大地震災害

2021年8月に発生したマグニチュード7.2の地震では2,200人以上が死亡し、現在も多くの人びとが苦しい生活を余儀なくされています。日本赤十字社は、発災直後から地元のハイチ赤十字社や国際赤十字・赤新月社連盟が行う救援活動への資金援助とともに、赤十字のテント型野外病院（病院ERU）に薬剤師や看護師を継続して派遣し、医療サービスの提供を支えました。また赤十字は、負傷者の捜索・救助活動といった緊急救援、救援物資の配付、感染症などの流行を防ぐための安全な水や衛生環境の確保、保健医療の提供などの支援を展開。今後は復興を見据えた支援を行っていきます。



● 2021年ハイチ地震救援金

支援の受付期間

2021年8月18日～2021年11月30日

※海外救援金の受付は終了しました。

寄付金額

合計 3,824万 3,349円

活動の詳細
内容はこちら



誰一人 取り残さないために

苦しむ世界中の人々の
救援活動を行っています。

赤十字は感染症や紛争、
災害など二重・三重の危機に

AFGHANISTAN

干ばつ、コロナ、政変 — 何重もの人道危機

2021年、アフガニстанはこの数十年で最大の干ばつに見舞われ、国民の半数以上が食料危機に直面しています。各地での紛争、新型コロナウイルス感染症の猛威に加えて、8月の政変により、長年頼ってきた国際社会からの支援が滞り、人々は十分な医療サービスが受けられなかったり、仕事を失ったりと、困難と不安の中で暮らしています。アフガニстан赤新月社は、この未曾有の人道危機に立ち向かうため、同国全土で医療や食料支援、避難民への仮設住居や生活必需品配付などの緊急支援をはじめ、感染症対策や衛生改善、防災活動などの様々な支援を国際赤十字と一丸となって続けています。

※国際赤十字とは、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字・赤新月社の総称を指します。



©IFRC

● アフガニстан人道危機救援金

支援の受付期間

2021年9月22日～2022年3月31日予定

寄付金額

合計 939万 4,650円

(令和3年11月30日現在)

活動の詳細
内容はこちら





中東人道危機救援

(イエメン、イラク、シリア、パレスチナ、レバノン)



MIDDLE EAST

2011年に始まり10年を超えたシリア紛争は、未だに1,200万人が自分たちの住む場所に帰ることができずに避難生活を続けており、「第二次世界大戦以降最悪の人道危機」とも言われています。このような人々たちを支援するため、日本赤十字社は2015年より、レバノンに中東地域代表事務所を置き、イエメン、イラク、シリア、パレスチナ、レバノンで難民・避難民を対象とした中長期的な人道支援に取り組んできました。紛争の苦しみや不安を少しでも軽減するため、人々のきもちに寄り添う支援を続けています。

パレスチナ・ガザ地区での 軍事衝突激化への対応

2021年5月、10年以上にわたり封鎖の続くガザ地区において、イスラエルとの4度目の軍事衝突が発生。パレスチナ赤新月社は避難場所における物資配付支援、心理社会的支援を行い、日本赤十字社は、総額2,500万円の支援を届け、この活動を支えました。



パレスチナ赤新月社医療支援事業

日本赤十字社は慢性的な医療機器・人員の不足や財政難にあるレバノンとガザ地区のパレスチナ赤新月社病院に医師・看護師を派遣し、医療サービスの技術向上に取り組んできました。2020年はコロナ禍により日本からリモートでの技術支援活動を実施。2021年はワクチン接種の普及や感染状況を注視し、レバノンにおいて医師・看護師の派遣を再開しました。感染症で変化した病院の状況やニーズを丁寧に調査し、新たな活動実施に向けて準備を進めています。



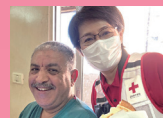
レバノン赤十字社水衛生環境改善事業

2015年から継続しているシリア難民や脆弱なレバノン人コミュニティに対する水衛生環境の改善事業は2021年で7年目を迎えました。シリア国境付近で小規模コミュニティを形成しテント住まいをする多くの難民に対し、レバノン赤十字社は、トイレや水タンクなどの衛生設備の整備や、子どもたちへの衛生教育を実施。長らく日本赤十字社が支援してきた地区のほとんどのコミュニティに、レバノン赤十字社の水衛生支援を届けることができました。



現地に派遣された日本赤十字社スタッフより

厳しい現状だからこそ、医療提供が自分たちの使命だと改めて感じています。皆さまからのご寄付によって成り立っている医療事業に対して、現地では多くの人々から感謝の言葉を掛けられました。本当に、どうもありがとうございます。（大阪赤十字病院・池田）



中東人道危機救援金

支援の受付期間

2015年4月1日～2022年3月31日予定

寄付金額

合計 3億 6,451万 9,069円

(令和3年11月30日現在)

活動の詳しい
内容はこちら >





新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、
保健医療サービスを確実に届けることができました！

【2020年1月～2021年10月末までの実績】

診察した患者数 ≫ 39,463人 地域保健活動(家庭訪問数) ≫ 92,215回
母子保健サービス提供数 ≫ 3,909件 心理社会的支援受益者数 ≫ 23,224人

診療所でも心理社会的支援を開始

避難民キャンプにあるコミュニティ施設を中心に、地域に根差した心理社会的支援を行っています。施設でレクリエーションやグループ活動を行うことで、子どもから大人まで安心して過ごせる居場所づくりを支援しています。さらに、別のキャンプの診療所においても心理社会的活動を開始。診療所と地域との連携を強化し、避難民の心身の健康を包括的に支援していきます。



母子保健サービスの充実に向けて

診療所で、産前産後健診や乳幼児健診などの母子保健サービスを提供し、母子の健康、子どもの健全な成長を支援しています。キャンプ内では、望まない妊娠を減らし、母子の危険を早期発見し予防することが重要とされています。診療所でも、文化的背景を踏まえた多様な避妊方法を紹介、望まない妊娠への対処など選択ができるよう説明し、女性の権利が尊重されるよう支援を行っています。



バングラデシュ南部避難民支援



BANGLADESH

2017年8月25日にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為を逃れ、大量の避難民が隣国バングラデシュに流入したアジア最大の人道危機は、早くも5年目に突入しました。今も約88万人の避難民が、仮住まいの簡素な家屋で先の見えない生活を送っています。日本赤十字社は、バングラデシュ赤新月社と共に、避難民のため、診療活動、母子保健、地域保健活動、心理社会的支援を継続しています。

※国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギヤ」という表現をしないこととしています。

現地に派遣された日本赤十字社スタッフより

皆さまからいただいたご寄付が日本赤十字社と共に働くバングラデシュ赤新月社の仲間を通じて確実に避難民の方々に届いています。本当にありがとうございます。
(日赤愛知医療センター
名古屋第二病院・菅原)



皆さまの温かい支援が、コロナ禍であっても、診療所での医療活動、コミュニティでの啓発活動、そして、人びとが安心・安全を感じられる活動へ役立っています。これからもよろしくお願いいたします。
(日赤医療センター・苔米地)

バングラデシュ南部
避難民救済金

支援の受付期間 2017年9月22日～2022年3月31日予定

寄付金額 合計 1億 1,913万 8,659円
(令和3年11月30日現在)

活動の詳細い
内容はこちら ≫



ありがとうの声

赤十字の支援は地域コミュニティにかかせません

【ハイチ】 ロゼッテさん

ハイチ地震で被災したロゼッテさんは、震災で家を失い、ビニールシートと毛布で作った簡易なテントに家族と暮らしています。「私には5人の子どもがいます。地震が起きて以降、何とか自分たちの生活を立て直そうと頑張っていますが、本当に大変です。赤十字の支援は、私だけでなく私たちの地域コミュニティ全体にとってとても大切です。」



ただただ感謝以外の言葉はありません

【レバノン】 ユーセフさん

レバノンの首都ベイルートでの大規模な爆発で、ユーセフさん一家7人が暮らすアパートは、窓ガラスが吹き飛び、内壁も損傷し部屋が吹き曝しの状態になりました。そのような中、赤十字は窓の取り付け、壁の補修、台所やトイレと言った水回りの修繕など復旧支援を実施。「赤十字の支援は、私たちが必要としていたことに早急に応えてもらったので、子どもたちも風邪を引いたりせず、大変助かりました。」



心理社会的支援によって救われました

【バングラデシュ】 ビビさん

「2017年の危機の際、近隣の人々と6日間かけて避難してきました。避難民ボランティアが何度か家を訪ねてくれて、心理社会的支援の女性グループの活動に参加するようになり、ミンでの裁縫、マットづくりなど手芸をしました。何よりも同じ境遇の女性たちと話すことができたことが、とても良かったです。参加することができて本当に救われた思いです。」



皆さまのご支援でできること

例えば...

1,000円で

バングラデシュで、衛生用品キット（石鹸、タオル、歯ブラシなど、個人用2か月分）を約3人へ配付することができます。



5,000円で

シリア難民の居住地域で、トイレ清掃キットを約7世帯に配付することができます。トイレ清掃キットの中には、ブラシ、スポンジ、石鹸、ゴム手袋などが含まれます。



10,000円で

バングラデシュで、保健ボランティアが使用する「健康教育冊子」を7冊作成し、350世帯へ健康教育を提供できます。



30,000円で

シリア難民約12世帯に対し、ソーラーランタンを1つずつ配付することができます。ランタンは特に人々が安全に屋外のトイレを使用する時に役立ちます。



これからも、災害や病気・紛争で
苦しむ人を救うために

皆さまのご協力をお願いします

ご協力方法



郵便局・ゆうちょ銀行

お近くの郵便局窓口から手数料無料でご寄付いただけます。



インターネット

スマートフォンやパソコンから、ご寄付いただけます。
また、銀行振込の振込先、クレジットカードでの振込方法、
事業実績等につきましても二次元バーコードから
ご確認ください。



現在募集中の
海外救援金はこちらです



税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告をすることで、
税制上の優遇措置を受けられます

個人の場合



寄付



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

還付



税務署

所得控除の計算式

$A: \text{年間所得総額} - B: (\text{寄付金額} - 2,000\text{円}) = C: \text{所得税課税対象額}$

※ただし、対象となる寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

【お問合せ先】

日本赤十字社

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 活動に関するお問合せ：TEL 03-3437-7088
寄付に関するお問合せ：TEL 03-3437-7081
平日9:00-17:00(土日祝日除く)

<https://www.jrc.or.jp>

日本赤十字社

検索



赤十字が世界各地で取り組んでいる人道支援活動について
毎週、最新のニュースをお届けします

「赤十字国際ニュース」メールマガジン



ぜひ
ご登録
ください